

**令和元年度
えひめ中小企業応援ファンド
地域密着型ビジネス創出助成事業
募集要項**

○ 応募受付及び詳しい事業案内等

公益財団法人えひめ産業振興財団

〒791-1101 松山市久米窪田町337-1

TEL 089-960-1201

FAX 089-960-1105

本募集要項及び応募様式は、次のホームページからダウンロードすることができます。

<http://www.ehime-inet.or.jp/subsidy>

○ 受付期間

令和元年度	令和元年5月20日（月）～ 令和元年6月24日（月）
※受付期間内に、持参又は郵送により提出してください。 （6月24日 17:00 必着）。	

令和元年5月

公益財団法人えひめ産業振興財団

目 次

1	事業の目的	1 ページ
2	助成対象者	1 ページ
3	助成対象事業	1 ページ
4	助成対象経費	2 ページ
5	助成率及び助成限度額	2 ページ
6	助成期間	2 ページ
7	助成の取消し	2 ページ
8	ビジネスサポートオフィス等による事前相談	2 ページ
9	応募方法	3 ページ
10	募集及び締切	3 ページ
11	採択方法	3 ページ
12	その他応募に係る注意事項	4 ページ
13	助成事業者の義務	4 ページ
14	助成事業実施に係る注意事項	4 ページ
15	助成事業の流れ	5 ページ
16	応募受付・問合せ先	6 ページ
	応募申込書記載例	7 ページ

1 事業の目的

地域間格差の拡大が懸念される中で、地域が自立的・持続的な成長を実現するため、県内で培われた製造技術並びに県内の豊富な農林水産物や良質な自然資源など、地域に潜在する資源を活用し、地域課題を解決する地域密着型のビジネスを展開するための経費を助成することにより、地域の活力や雇用の創出を図ります。

2 助成対象者

中小企業者、中小企業団体（同等の性格を有する者として知事が承認した一般社団法人等を含む。）又はそれらのグループ（以下「中小企業等」という。）で、法人設立後5年未満（グループの場合、形成するすべての中小企業等が法人設立5年未満）又は法人設立後5年以上で日本標準産業分類における新たな小分類へ進出する中小企業等。

※「中小企業者」とは、中小企業等経営強化法（平成11年法律第18号）第2条第1項第1号から第5号に掲げる会社のうち、愛媛県内に本社若しくは主たる事業所を有する会社又は立地する会社であって、次のいずれにも該当しない会社

(1)発行済株式の総数又は出資金額の2分の1以上が同一の大企業（中小企業等経営強化法第2条第1項各号に掲げる者以外のものをいう。以下同じ。）又はその役員の所有に属している会社

(2)発行済株式の総数又は出資金額の全額が複数の大企業又はその役員の所有に属している会社

※「中小企業団体」とは、県内に所在する中小企業団体の組織に関する法律（昭和32年法律第185号）第3条第1項に規定する中小企業団体（ただし、火災共済協同組合、信用協同組合、協同組合連合会及び商工組合連合会は除く。）

※中小企業者以外の者に対する助成金の総額は、当該年度のビジネス創出助成事業に係る助成金の総額の100分の30未満とします。

※対象者は、暴力団等の反社会的勢力でない者、反社会的勢力との関係を有しない者又は反社会的勢力からの資金提供を受けていないことを条件とします。

3 助成対象事業

県内で培われた製造技術や農林水産物、伝統工芸品等の特産物、文化財、自然の風景などの地域資源（「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律」に基づき愛媛県が指定した地域産業資源のほか、地域で収穫される農産物、地域で水揚げされる水産物、地域で生産される伝統工芸品、地域の風景、独自技術など、当該地域において生産される、又は認識されている資源を広く指す。）を活用し、地域課題を解決するビジネス

http://www.pref.ehime.jp/h30300/1195994_1878.html

※原則として、上記の事業に新たに取り組むものを対象としますが、既存事業であっても事業の拡大・発展を期するものについては対象とします。

なお、法人設立後5年以上の中小企業者等については、日本標準産業分類における新たな小分類へ進出することが条件となります。

4 助成対象経費

助成対象事業を適切に実施し得るために必要な経費であって、助成期間内に支払いが発生し、また、支払いが完了する次に掲げる経費とします。(人件費は対象とはなりません。)

区 分	内 容
設備・備品費	設備、機械、備品、構築物等の購入、製作、借用、改良又は修繕に要する経費
土地・建物賃借費	土地及び建物の借用に要する経費（敷金及び礼金を除く）
知的財産登録費	知的財産の登録に要する経費
マーケティング費	マーケティング等に要する経費（旅費を除く）
技術指導受入費	技術指導、経営指導等の受け入れに要する経費
その他の経費	その他理事長が必要と認める経費

※助成対象経費には、当該経費に係る消費税及び地方消費税を含めることができません。

※助成対象経費のうち、借入等に係る契約期間が当該助成期間を超える場合は、比例按分方式により当該助成期間分を助成対象とします。

5 助成率及び助成限度額

助成対象経費の1/2以内とし、1件あたり150万円を限度とします。

※過去のEGFアワードにおいて各賞を受賞したビジネスプランに係る事業に対する助成率は、助成対象経費の3分の2以内となります。

※事業内容、規模等により助成額を減額する場合があります。

6 助成期間

1年間（基本、事業期間は、交付決定後、当該年度内（令和2年3月31日まで）としていますが、やむを得ない場合は、1年以内を原則として繰越を検討します。）

※事前に当財団助成事業事務局にご相談下さい。

7 助成の取消し

次のいずれかに該当するときは、助成金の交付決定を取り消すとともに、既に交付された助成金については、その返還を求めます。

- (1) この助成事業に関し理事長に提出した書類に偽りの記載があったとき
- (2) 助成金交付の条件に違反したとき
- (3) 助成事業の実施について不正行為があったとき
- (4) 助成事業を中止又は廃止したとき
- (5) 法令違反などの反社会的行為が明らかになったとき

8 ビジネスサポートオフィス等による事前相談

応募申込書や事業計画等の作成にあたっては、事前にビジネスサポートオフィス、よろず支援拠点、6次産業化サポートセンター等で相談（無料）を受けることができます。

9 応募方法

(1) 応募申込書を作成のうえ、受付期間内に公益財団法人えひめ産業振興財団まで提出してください。

【提出書類】

○応募申込書（様式第1号及び別紙1～3：正本1部）

○愛媛県が課税するすべての県税（個人県民税及び地方消費税を除く。）に未納がないことを証する書類（納税証明書）（正本1部）

※愛媛県の各地方局税務管理課（南予地方局にあつては税務課、各支局にあつては税務室）で発行されます。（市役所・税務署等では発行されません。）

※証明手数料として、愛媛県収入証紙400円が必要となります。

※納税証明書についてのお問い合わせは、各地方局または支局までお願いします。

○設備、機械、備品、構築物等の購入、製作、借用、改良又は修繕に要する経費、HP製作、デザイン製作等、外部に委託する経費を助成対象とする場合には、積算根拠書類（参考見積書／会社印の捺印された見積書）等・・・各写し1部

○提出者の定款、登記事項証明書、直近3期分の決算書・・・各写し1部

※提出者の関連法人がある場合は、併せて直近3期分の決算書・・・各写し1部

(2) 応募申請書の中で使用する専門用語等については、簡単な解説一覧を作成してください。

(3) その他、不明な点については、当財団産業振興課までお問合せください。

10 募集及び締切

令和元年度	令和元年5月20日（月）～令和元年6月24日（月）
※受付期間内に、持参又は郵送により提出してください。（6月24日17:00必着）	

11 採択方法

(1) 審査方法

担当者による現地調査を行った後、学識経験者等で構成する審査委員会の審査を経て決定します。

(2) 審査手順

① 書類審査

- ・ 応募申込書及び現地調査の結果による審査を実施します。
- ・ 書類上の軽微な不備等がある場合には、補正を求めることがあります。
- ・ 書類審査の結果は、文書でお知らせします。

② 面接審査

- ・ 書類審査を通過した事業を対象に面接審査を実施します。
- ・ 応募者からのプレゼンテーション及び事業内容のヒアリングにより審査します。
- ・ 面接審査の結果については、文書でお知らせします。（採択となった場合には、助成金の

交付に係る手続きに移ることになります。また、不採択となった場合には、理由等はいかなる場合でもお答えすることはできません。）

1 2 その他応募に係る注意事項

- (1) 応募された書類等は返却しませんので、予めご了承ください。
- (2) 応募内容については、氏名（企業名）、事業名、概要など必要最小限の範囲で公表することに同意したものとみなします。
- (3) 上記（2）以外の応募内容の詳細について、秘密は厳守しますが、特別なノウハウや技術等については、応募者自身の責任において、特許や実用新案の出願など、自衛措置を講じてください。
- (4) 面接審査への出席等を含め、応募に係る一切の費用については、応募者自身の負担となります。
- (5) 本助成事業は、競争的資金であるため、応募申込書を提出されても、必ず採択されるものではありません。
- (6) 同一の事業内容で、他の補助金や助成金と重複して当助成金を交付することはできません。重複する可能性がある場合には事前に相談してください。

1 3 助成事業者の義務

助成金の交付決定を受けた方は、次の条件を守らなければなりません。

- (1) 交付決定を受けた後、助成事業の経費の配分又は内容を変更しようとする場合、若しくは助成事業を中止又は廃止しようとする場合は、事前に承認を得る必要があります。【厳守】
- (2) 当財団から、助成事業の実施年度途中の遂行状況の報告を求められた場合にはそれに応じる必要があります。【厳守】
- (3) 助成事業を完了したときは、30日以内又は助成金の交付決定のあった日の属する年度の3月31日のいずれか早い日までに実績報告書を提出する必要があります。【厳守】
- (4) 助成事業が完了した会計年度の終了後3年間、各年度における助成事業成果の事業化状況を報告するほか、当財団からの求めに応じ、助成事業に関する調査に協力する必要があります。【厳守】
- (5) 助成事業の成果により、相当の収益を得たと認められた場合、その収益の全部又は一部（助成金額を限度）を財団に納付しなければなりません。（なお、収益納付すべき期間は、助成事業が完了した日の属する会計年度以降3年間とします。）【厳守】
- (6) 助成事業により取得した機械等の財産又は効用の増加した財産については、助成事業の終了後も善良なる管理者の注意をもって管理し、助成金交付の目的に従って効果的運用を図る必要があります。（他の用途への使用はできません。）【厳守】
- (7) 助成事業に係る経理については、その他の経費と区分して、その収支の事実を明確にした証拠書類を整備し、交付年度終了後5年間保存する必要があります。【厳守】

1 4 助成事業実施に係る注意事項

- (1) 助成対象経費は、交付決定後に取得・支出する費用に限られます。
- (2) 助成金は、助成事業終了後、経費の支払い実績を証拠書類等により確認した後に交付します。従って、事業実施にあたっては、助成金相当分の経費を立替払いする必要があります。また、助

成金は対象経費に所定の助成率(2分の1又は3分の2以内)を乗じた額となるため、残額を自己負担分として支出する必要があります。

- (3) 経費の支払い実績が証拠書類等により確認できない場合には、当該経費は助成対象外となります。
- (4) 助成事業の実績確認については、原則、財団が実地検査を行います。
- (5) 現金手渡しでの支払いは助成対象として認めません。銀行振込(振込手数料は対象外)、小切手、手形による支払いが対象となります。(ただし、回し手形による支払いは認めていません。また、小切手、手形による支払いは助成事業期間内に決済される必要があります。)
- (6) 助成事業者が助成金交付の決定の内容又はこれに付した条件その他法令等に違反したときは、助成金交付の取消、返還、不正の内容の公表等を行うことがあります。
- (7) 助成事業終了後、財団が実施する事業成果展示会等で事業成果発表をしていただく場合があります。

1 5 助成事業の流れ



※このスケジュールは標準的なもので、多少、前後することがあります。

16 応募受付・問合せ先

(1) 応募受付及び詳しい事業案内等

公益財団法人えひめ産業振興財団 産業振興部 産業振興課

〒791-1101 松山市久米窪田町 337-1 (テクノプラザ愛媛内)

TEL 089-960-1201 FAX 089-960-1105

様式のダウンロード <http://www.ehime-inet.or.jp/subsidy>

(2) 愛媛県が課税するすべての県税（個人県民税及び地方消費税を除く。）に未納がないことを証する書類（納税証明書）の発行場所

（愛媛県の各地方局税務管理課（南予地方局は、税務課、各支局にあつては税務室））

地方局	所在地	電話番号
東予地方局	〒793-0042 西条市喜多川 796 番地 1	0897-56-1300 (代)
今治支局	〒794-8502 今治市旭町一丁目 4 番地 9	0898-23-2500 (代)
中予地方局	〒790-8502 松山市北持田町 132 番地	089-941-1111 (代)
南予地方局	〒798-8511 宇和島市天神町 7 番 1 号	0895-22-5211 (代)
八幡浜支局	〒796-0048 八幡浜市北浜一丁目 3 番 37 号	0894-22-4111 (代)

(注1) 納税証明書の交付申請の際には、納税証明願を提出すること。

<https://www.pref.ehime.jp/h10500/nouzeisyomei/nouzeisyomei.html>

(注2) 課税がなく、納税額が0円の場合でも「未納がないこと」の納税証明書を発行してもらってください。

この助成事業は、公益財団法人えひめ産業振興財団が、愛媛県、独立行政法人中小企業基盤整備機構、株式会社伊予銀行、株式会社愛媛銀行、愛媛信用金庫、川之江信用金庫、東予信用金庫、宇和島信用金庫及び四国電力株式会社と協働で取り組んでいます。（「えひめ中小企業応援ファンド」による助成事業）

様式第 1 号 (第 8 条関係)

年 月 日

公益財団法人えひめ産業振興財団
理事長 様

〒●●●●-●●●●

【法人代表者名(役職含む)を記入

住 所 松山市●●町 1-2-3

法 人 名 株式会社 えひめ産業

代表者名 代表取締役 愛媛太郎 印

地域密着型ビジネス創出助成事業応募申込書

法人については、代表者印(丸印)を押印

地域密着型ビジネス創出事業助成金交付要綱第 8 条の規定により、次のとおり応募申込書を提出します。

記

1 添付書類

申請書類	その他
① 別紙 1 (事業の概要)	①愛媛県が課税するすべての県税(地方消費税を除く。)に未納がないことを証する書類(納税証明書)(正本 1 部) ②定款、登記事項証明書、直近 3 期分の決算書(各写し 1 部) ③その他既存の資料等で団体の活動状況がわかるもの(会則・規約等)
② 別紙 2 (収支計算)	
③ 別紙 3 (提出者の概要)	

2 連絡先

電話番号	() -
ファックス番号	() -
E-mail	

(備考)用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

事業の概要

項目	内容
1. 事業名	※第三者に分かりやすい事業名を簡略に記入すること。
2. 事業期間	「記載例」 令和元年〇月〇日 ～ 令和2年〇月〇日 (※事業内容によっては、事業終了が早くなっても結構です。終期(事業期間)が、令和2年3月31日を越える場合については事前に事務局にご相談下さい。)
3. 事業概要	※どのような地域課題解決するために地域資源の特徴を活用して事業を実施するのか、概要を分かりやすく記載してください。 「記載例」 〇〇地域における、〇〇の課題を解決するため、地域資源である〇〇を有効活用して付加価値化した個性的な△△を開発・製造し、全国の〇〇をターゲットとした新市場の開拓し、〇〇に繋げていく。 ※法人設立後5年以上の中小企業者等については、日本標準産業分類における新たに進出する小分類の業種を記載してください。
4. 解決する地域課題	※どのような地域課題があり、現状はどのようなになっているのか。
5. 活用する地域資源	※活用する地域産業資源の名称や特徴などを簡潔に記載してください。 ※活用する地域産業資源については、以下をご参照ください。 http://www.pref.ehime.jp/h30300/1195994_1878.html 「記載例」 南予地域における〇〇は、地域資源として全国における知名度も高い。しかし、変形した地域資源〇〇は、その形状から□□と呼ばれ、商品価値のない規格外品として取り扱われている現状にある。当事業においては、この変形〇〇(□□)を活用し、規格外品から付加価値を付けた新商品として差別化を図り、新たな市場を開拓する。。
6. 法人の概要	「記載例」 名称 代表者 取締役 資本金 など
7. 事業実施場所	※事業の実施場所を記載してください。 「記載例」 松山市〇〇1-1 △ビル5階
8. 事業に関する代表者の経験・能力・資格等	代表者 生年月日 年 月 日生 (歳) ※申請日現在 職 業 本事業に関する経験等
9. 過去のEGFアワード受賞歴	・受賞年: 年 ・受賞賞名: ・ビジネスプラン名
	申請助成率 1/2 ・ 2/3

○事業の詳細

①事業及び商品・サービスの概要

※地域資源を活用してどのような地域課題解決型ビジネスを実施するのか、概要を記載。
また、その事業を実施するに至ったきっかけとこれまでの取組状況も踏まえて記載。

「記載例」

南予においては、〇〇〇〇等により高齢化が進み、担い手の確保等に苦慮しているところである。そこで、全国有数の〇〇産地とされる地域資源〇〇は、高品質であるものの、量産化や海外輸入の影響により、現在は価格低迷に陥っている。そのような状況の中、当事業は、規格外品とされる変形〇〇ならではの魅力や面白さなどの特徴を活かし、新しい付加価値と差別的優位性を持たせた商品を試作し、改良を行うことで、地域資源〇〇の新たな市場を開拓し、地域産業の活性化、雇用の創出に繋げる。

また、試作品については、市場や消費者調査を踏まえて改良するほか「〇〇展示会」に出展し、バイヤーや一般消費者に対してアンケートを実施するなどの評価からその結果を商品に活かし、全国の〇〇をターゲットとして販売を行っていく。

②類似事業の有無、その事業との違い（優位性及び弱点）

※競合製品としてどのようなものが考えられ、それと比べてどのように優れているのか、劣っているのかなど、できるだけ多面的に比較検討して記載。

「記載例」

同業者の多くは、変形した地域資源の〇〇を規格外品として取り扱っており、現時点での〇〇市場における当該事業製品は、競合が少なく成長段階にある。

■優位性

- ・愛媛県産の〇〇は、全国的に認知度が高く、信頼性がある。
- ・独自の技術を活かしたデザイン性の高い商品で、品質・価格面においても既存の市場とは異なる柔軟な事業展開ができる。

■弱点

- ・地域資源の〇〇は、天然で素材そのものは質の高いものであるが、その形状から規格外として取り扱われ、商品の価値がほとんどない現状である。規格外品としての既成概念を払拭し、新たな市場の開拓と販売戦略が必要不可欠である。

表：本事業の製品〇〇と競合製品等との比較検討表

	品質	価格	ターゲット	販売方法
当社製品	天然〇	〇円	30代～50代(女性)	B to B、B to C
他社A製品	天然□	□円	□	□
他社B製品	天然△	△円	△	△
他社類似C製品	天然×	×円	×	×

【参考資料】〇〇出典、〇〇ホームページ

③市場規模（ターゲット層、顧客数、対象エリア、市場の状況、将来性）

※どのような顧客層をターゲットとするのか、各種統計資料などを参考に市場ニーズの背景などを踏まえて、現状や将来性について記載。

「記載例」

本事業で製造販売する〇〇は、従来の類似品とは異なり、価格やデザインという観点からも、商品の購買におけるターゲット層が〇〇であり、〇〇市場における既存商品との棲み分けにより、新たな販路が見込まれる。

また、本製品の属する〇〇市場の規模は、平成××年の◇◇調査によると〇〇であるが、〇〇市場の需要は、インターネットなどの情報通信網の発達を背景としてターゲット層を中心に需要が伸び、その市場は、拡大すると期待できる。

【参考資料】平成××年◇◇調査（〇〇出典）

■ターゲット層について

当該商品の購入対象として期待できるのは、〇〇から〇〇歳代のブランドに拘らない女性層。ただし、購入する商品については、素材やデザインの良さを理解し、ある程度の人的ネットワークを所有していると考えられる層を中心に顧客層とする。

■顧客数について

平成××年の〇〇統計資料から推察できる顧客数は、△、△△△、△△△人である。

【参考資料】〇〇出典

■対象とするエリアについて

営業活動については関東圏を中心とするが、ターゲットである〇〇の有する人的ネットワークを通じた口コミやホームページ開設による宣伝効果を活かし、全国を対象とする。

■市場の状況について

バブル期の〇〇市場規模は、バブル崩壊後縮小し続けたが、平成△△年にようやく歯止めがかかり、前年に比べて1.2%増の△△億円となっており、平成□□年頃までは、増加傾向にあると予測されている。

【参考資料】平成××年(株)〇〇統計事務所調べ

■将来性について

本事業で製造販売する〇〇は、従来の類似品とは異なり、規格外品に価格やデザインという付加価値を付けた新商品として差別化を図り、新たな市場を開拓することで新たな地域ブランドを構築することができる。

④販売方法等（顧客確保の方策、販売価格、販売方法、PR方法）

※上記③のターゲットとする市場において、誰を対象に、どのような手順で、どのようにして販売戦略を進めていくのか、具体的に記入してください。

「記載例」

■顧客確保の方策

- ・展示即売会や商談会を通じた新規顧客の開拓
- ・ホームページによるインターネットを利用した新規顧客の獲得
- ・既存顧客等からの口コミによる紹介

■販売価格

各年代における嗜好や特性に応じた商品化を行い、価格を設定する。

対象	デザイン	価格
20歳後半～	A	A円
30歳代	B	B円
40歳代	C	C円
50歳代以上	D	D円

■販売・PR方法

- ・関東圏におけるバイヤーへの営業活動
- ・展示会出展やコンテストへの出品によるPR
- ・その他各種メディア等への掲載

⑤成果目標

助成期間中の売上計画額

円

⑥事業スケジュール

ア助成事業期間の事業スケジュールを具体的に記載してください。

「記載例」

令和××年8月：マーケティング調査実施
令和××年10月：新商品デザイン企画
令和××年11月：試作品製作
令和××年12月：マーケティング調査実施（消費者調査）
令和××年12月：商品改良
令和□□年1月：ホームページ製作
令和□□年3月：〇〇展示会へ出展

イ助成事業期間終了後の事業展開予定・スケジュールに雇用計画、収支見込を含め、将来展望について、その概要を記載してください。

「記載例」

令和△△年3月：〇〇展示会へ出展
令和△△年5月：〇〇百貨店での新商品即売会の実施
令和△△年7月：〇〇コンテストへ出品
令和△△年7月：ホームページの更新
令和△△年9月：商品リニューアルのためのデザイン企画
令和△△年9月：〇〇デザインコンテストへの応募
令和△△年11月：新商品販売会の実施

⑦助成内容及び効果の見込み

助成事業により商品のブランド構築が行われ、ロゴデザインやPRツールの充実が期待できる。
助成事業により導入した〇〇〇の設備備品を活用して、自社での一貫製造体制が構築でき、より迅速な顧客対応型のビジネスが実現できる。
助成事業により実現した展示会出展や□□□□□などの販促グッズの作成により、商品の訴求効果が得られ、成果（売上）目標を達成するためのPRツールとして欠かせないものとする。

⑧事業実施に必要な許認可等の内容及びその見込

⑨補助金の交付を受けた実績又は申請中の補助金

(※) 応募事業に関連して従来補助金の交付を受けた実績や、現在申請中の他の補助金があれば、その名称、交付者、交付金額及び交付年度を記入すること。

⑩えひめ産業振興財団からの支援実績

(※) 過去の助成金、よろず支援拠点、ビジネスサポートオフィス等による支援を受けた内容を記載すること。

⑪今回の事業への協力者

地元市町、商工会議所、地域グループなど申請事業に関する協力者を記載してください。

※それぞれの記入欄については、適宜、枠を調整するとともに、「別紙1-1/事業の概要」から「事業の詳細①～⑪」について、【合計4枚以内】に収まるようにしてください。記載しきれない内容については、追加資料（枚数制限なし）で対応して下さい。

別紙 2

○事業経費一覧表 (全体)

(単位:円)

経費区分	名称	積算内訳	助成事業に要する経費	助成対象経費 (消費税等を除く)	助成金交付申請額
(1) 設備・備品費	加工機械類 備品	乾燥機 1台	540,000	500,000	
		冷蔵庫 1台	216,000	200,000	
		パソコン、プリンター	108,000	100,000	
計			864,000	800,000	400,000
(2) 土地・建物賃借費	土地建物賃借	●●家賃 (50,000円×12か月)	600,000	600,000	
		駐車場借上料 (3,000円×12か月)	36,000	36,000	
計			636,000	636,000	318,000
(3) 知的財産登録経費	商標登録	商標登録出願	216,000	200,000	
計			216,000	200,000	100,000
(4) マーケティング費	広告宣伝	H P作成	324,000	300,000	
		パンフレット作成	86,400	80,000	
計			410,400	380,000	190,000
(5) 技術指導受入れ費	謝金	●●技術取得講師料 (40,000円×2回)	86,400	80,000	
計			86,400	80,000	40,000
(6) その他経費					
計					
合計			2,212,800	2,096,000	1,048,000

○資金計画 (全体)

(単位:円)

区分	助成事業に要する経費	資金調達先
助成金	1,048,000	(公財) えひめ産業振興財団
自己資金	664,800	
借入金	500,000	●●銀行 ●●支店
その他		
合計額	2,212,800	

※助成対象に該当する期間の事業経費及び資金計画を記入のこと

○損益計算及びキャッシュフロー計算

(単位：千円)

項 目		決算期		
		年 月期決算	年 月期決算	年 月期決算
前期繰越金(A)				
収入	売 上			
	その他の収入			
	収入合計(B)			
支出	仕入原価			
	人件費			
	その他の支出			
	支払合計(C)			
減価償却費(D)				
当期収支差額(E) (B-C-D)				
助 成 金(F)				
自 己 資 金(G)				
借 入 金(H)				
設 備 投 資(I)				
借入金返済(J)				
次期繰越(A+B-C+F+G+H-I-J)				

※収入及び支出については、積算内訳を明記すること。

提出者の概要(法人用)

(※)グループで提出する場合は、全構成員について記入のこと。

法人名			創業	年 月 日		
代表者						
住所						
資本金	円		従業員	人		
株主の状況	株主氏名	住所		持株数	比率	備考
主要生産・販売品目及び金額	品 名		生産金額 (千円)			
			最近決算期		前決算期	
			自 年 月 日	自 年 月 日	至 年 月 日	至 年 月 日
現有施設		用途	所在地		面積	
	土地					
		用途	建物の構造		面積	
	建物					
		機械又は装置	用途		台数	備考
	主要設備					

○これまでの収支状況(直近3年間について記入)

	年 月 期	年 月 期	年 月 期
売上高	千円	千円	千円
経常利益 (所得金額)	千円	千円	千円

グ ル ー プ の 構 成

(※) グループで提出する場合のみ提出すること。

(グループの名称：)

1 グループの内訳

①名	称 (企業名)	(グループの代表者)		
②	代表者職・氏名 (若しくは個人名)			
③	本社所在地 (若しくは住所)			
④	資本金(千円) (個人の場合は不要)			
⑤	従業員数(人)			
⑥ 本 事 業 の 実 施 体 制	実施場所			
	担当部署名			
	主たる担当者の 職・氏名			
	事業担当者の人 数			
	連絡先 (電話番号)			
	グループでの 役割・分担			

2 グループ構成(役割)のイメージ図

損益計算及キャッシュフロー計算／積算内訳

区分		初年度			●●年度			●●年度					
		単価 (円)	数量	金額(円)	単価 (円)	数量	金額(円)	単価 (円)	数量	金額(円)			
売上高	既存事業	○○○○○	1,111	100	111,100	1,111	200	222,200	1,111	250	277,750		
		◇◇◇◇◇	2,222	100	222,200	2,222	200	444,400	2,222	250	555,500		
		△△△△△	3,333	100	333,300	3,333	200	666,600	3,333	250	833,250		
	新規事業	●●●●●	4,444	300	1,333,200	4,444	400	1,777,600	4,444	500	2,222,000		
		◆◆◆◆◆	5,555	300	1,666,500	5,555	400	2,222,000	5,555	500	2,777,500		
		▲▲▲▲▲	6,666	300	1,999,800	6,666	400	2,666,400	6,666	500	3,333,000		
① 売上合計		5,666,100			7,999,200			9,999,000					
			原価率 (%)			原価率 (%)			原価率 (%)				
売上高原価	既存事業	○○○○○		30%	33,330		30%	66,660		30%	83,325		
		◇◇◇◇◇		35%	77,770		35%	155,540		35%	194,425		
		△△△△△		40%	133,320		40%	266,640		40%	333,300		
	新規事業	●●●●●		35%	466,620		35%	622,160		35%	777,700		
		◆◆◆◆◆		31%	516,615		31%	688,820		31%	861,025		
		▲▲▲▲▲		30%	599,940		30%	799,920		30%	999,900		
② 原価合計		1,827,595			2,599,740			3,249,675					
③ 売上総利益 (①-②)		3,838,505			5,399,460			6,749,325					
			人	月数		人	月数		人	月数			
固定経費	役員報酬	200,000	1	12	2,400,000	200,000	1	12	2,400,000	200,000	1	12	2,400,000
	従業員給与	0	0	12	0	100,000	1	12	1,200,000	100,000	1	12	1,200,000
	家賃	50,000	0	12	600,000	50,000	0	12	600,000	50,000	0	12	600,000
	光熱費	10,000	0	12	120,000	10,000	0	12	120,000	20,000	0	12	240,000
	消耗品費	10,000	0	12	120,000	10,000	0	12	120,000	20,000	0	12	240,000
	広告費	10,000	0	12	120,000	10,000	0	12	120,000	20,000	0	12	240,000
	通信費	20,000	0	12	240,000	20,000	0	12	240,000	20,000	0	12	240,000
	利息	15,000	0	12	180,000	15,000	0	12	180,000	15,000	0	12	180,000
	初期投資	0	0		500,000	0	0		0	0	0		0
④ 支払合計		4,280,000			4,980,000			5,340,000					
⑤ 減価償却費		☆☆☆	100,000			100,000			100,000				
⑥ 収支差額 (③-④-⑤)		▲ 541,495			419,460			1,409,325					
助成金		3,000,000											
自己資金		1,000,000											
借入金		1,000,000											

